

令和5年度 第1回射水市文化財審議会 会議概要

- I 開会日時** 令和5年7月3日（月） 午前9時から午前11時半
- II 会議場所** 庁舎会議室401
- III 出席者** [委員] 上野委員（現地視察）、鈴木委員、久々委員、城岡委員
柳委員、三宮委員
[事務局] 金谷教育長、久々江事務局長、遠藤次長、田中課長補佐
原田主査、金三津主査、

IV 会議概要

1. 開会 教育長あいさつ
2. 議題(1)市有形民俗文化財「放生津八幡宮祭り 曳山車 新町曳山車」の現状変更について
3. 閉会 視察研修へ

【質疑・発言】

議題(1) 市有形民俗文化財「放生津八幡宮祭り 曳山車 新町曳山車」の現状変更について

[委員] 幔幕の芸術的価値はあるのか。

[事務局] 明治時代中期から昭和時代初期の短期間に流行したロココ調、西洋美術の要素を刺繍に取り入れた幔幕です。洋画のように表現された祭礼幔幕は、類例が殆どなく非常に価値のあるものとなります。

[委員] 現状変更許可書に非常に貴重な幕である旨の記載をしたほうがよいのでは。

[事務局] 許可条件のなかに追加します。

[委員] 現在の保管状況は。

[事務局] 桐箱にたたんで収納されていますが、今後は巻いた状態で保管します。

[委員] 日本画家山本永暉はどういう画家で、どうして依頼することになったのか。

[事務局] 山本永暉さんは京都で画風を学ばれた後、大正時代に福井県で活躍された画家です。新町に度々滞在されていた記録があるため、依頼されたのではないかと地元では言われています。

[委員] 住江織物(スミノエアート)ではなく川島織物(エポテックス)を選んだ理由は。

[事務局] 最終的には新町の判断にはなります。川島織物の担当者から仕様や技術的な説明を詳細に受け、出来上がりのサンプルも比較して決定されています。

[委員] 復元新調約7,000万円の見積金額は、手刺繍なのか。

[事務局] 下地部分も含め、全て手刺繍です。